慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	田中實先生追悼記
Sub Title	
Author	内池, 慶四郎(Uchiike, Keishiro)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1994
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.67, No.1 (1994. 1) ,p.138- 139
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	田中實先生追悼記事
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19940128-0138

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

作はいずれもわかり易く、しかもハッとさせられる思いつきもあり、小池先生とも恩師峯村先生とも異なる趣であった。

学生時代の処女論文は、やや峯村流とも思われるが、予科時代に手塚先生の講義に興味を持たれ、手塚先生が田中先生と前後して法学部に迎えられてからは、手塚先生の影響も強くなったように窺われる。論文の手法は手塚流からは遠いが、語りくちは手塚流にならったのではなかろうか。今はひたすら偲ぶのみである。

名誉教授　人見康子

田中實先生追悼記

去る八月早々に田中實先生の訃報に接した。余りに突然の、そして余りに慌ただしいご逝去に申し上げる言葉もない次第である。

昭和二十年代の日吉や三田の校舎で先生の民法総則や信託法の御講義を拝聴したのであるから、先生は私にとっては学生時代からの先生であり、民法専攻者としては大先輩である。論文作成や学会報告などで随分とお世話になったのであるが、気のきかぬ強情な田舎者で我が儘な後輩の私は、繊細な神経を持たれるスマートな都会人の先生に色々とご心配をおかけすることが多かったはずである。いまさらお詫び申し上げようもない。

定年で三田を去られてから後も、先生の長年のご尽力により法学部に設けられた信託法の寄付講座を担当せられて、名誉教授室などで時々お目にかかる機会があったけれども、ごく普段のようにお元気にお見受けしていたので、今更に伺っておきたかった事どもが思い浮かぶのが悔やまれる。昨年秋

に学位論文の審査報告書を書くお手伝いの仕事が、先生との最後の思出となってしまった。

田中先生を思う度に感ずるのは、戦争が学問の世界にとって、とりわけ大学の研究者にとって如何に悲惨な出来事であったかということである。欲を言えば切りがないけれども海外旅行も容易となり研究の環境施設が比較的に整ってきた現在から見れば、先生が学生時代を過ごされた日中戦争から太平洋戦争にかけての月日は、学問とりわけ社会科学の上では、鎖国状態の暗黒時代というほかはなかったであろう。

昭和二十年八月十五日。田舎町の中学生として終戦を迎えた私にとっては、戦争の時期は長い夏休みでしかなかったけれども、当時のニュース映画で見た昭和十八年雨の日の神宮外苑の学徒出陣の分列行進の場面は、いまだに鮮烈な映像として瞼に焼きついている。次第に風化する記憶の中にありながら、研究者として年月が経つにつれて、あの出来事の沈痛な意味が、あらためて重く感じられてくる。

あの時に先生がどのような思いで行進に加わっておられたのか。南方の戦場でマラリアの悪疾に病まれ復員された先生が、戦後の日々にどのような思いで再び三田の山に立たれたのか。学問の厳しい冬に耐えた先輩の目に、巡り来た戦後の学園の春の花々は如何ように映っていたのであろうか。今はもう伺う術もない。

先生の御冥福を心からお祈り申し上げるばかりである。

平成五年　九月二十三日

法学部教授　内池　慶四郎